

ほっこりだより

第78号 2016年9月4日 発行

東向日キリスト教会

京都府向日市森本町下森本6-5

Tel: 075 (931) 5934

<http://www.h-mukou-ch.jp/>

敬老の日と永遠の命

① 敬老の日の始まり。

敬老の日は、祝日として定着しています。一九四七年頃、兵庫県のある村で提唱され、「老人を大切に、年寄りの知恵を借りて村作りをしよう」と九月十五日を「年よりの日」と定めたそうです。

やがて、一九六六年に国民の祝日として定められました。「多年にわたり、社会に尽くしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う。」とを目的としています。

幸い、高齢者は大切にされ、平均寿命は、年々延びています。昨年度、男は八十一歳、女は、八十七歳となりました。

出来る限り、病気や怪我をせず、元気で過ごしたいと思うこととでしょう。時折、平均寿命をはるかに超えた方々が、第一線で活躍されているのを見聞きすると感心し、羨ましく思うのではないのでしょうか。

しかしながら、すべての人が、いつかはこの世から去る時が来るのです。案外、他人事のように考えていますが、死の時は避けて通ることはできません。しかし、もし永遠の命というものがあるなら、手に入れて見たいと思われませんか。

② 「永遠の命」を考えましょう。



キリストはこの死から私達を救うためにひとつの道を開かれました。キリストは、「わたしはよみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。また、生きていてわたしを信じる者は決して死ぬことはありません。」聖書と言われました。

キリストは神の子でしたが、私達と同じ人間となり、人々に神のこぼれを伝えました。最後に人間のすべての罪を背負って十字架にかかり、死なれました。しかし、三日目に死よりよみがえり、信じる者にまことのいのちである、永遠の命を与えて下さいました。

永遠の命とは、この世を去った後も神と共に安らぐことです。死の恐れや不安から勝利することです。再会の希望があります。

③ キリストによる救いを得るには。

この永遠の命は、キリストによって持つことができるのです。これは、すべての人に与えられる神からの無償の贈り物です。

第一に「誰にでも与えられます。」

神は人類を愛しておられ、キリストによって誰でも永遠の命を持つことを願っています。

「神は、実に、そのひとり子（イエス）をお与えになったほどに、世（人類）を愛された。それは御子（イエス）を信じる者がひとりとして滅びることなく、永遠の命を持つためである。」聖書

第二に「信じる者には与えられます。」

イエスキリストが救い主であることを信じることは誰にでもできます。子供も大人も高齢者も、また病床にある人でも出来るのです。

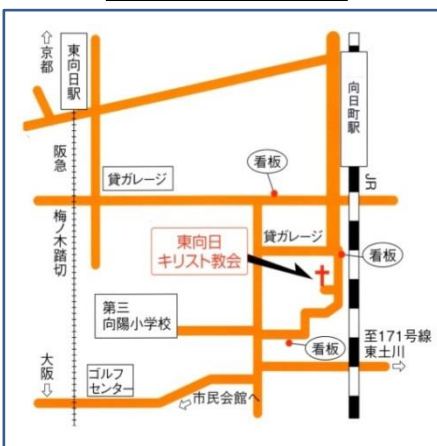
信じるとは、そのまま受け取ることです。心に信じて迎えることです。

第三に「信じて与えられます。」

永遠の命は、死んでから与えられるものではなく、今、その場ですぐに与えられるものです。修行やお供えで得られるのではなく、神の無代価の恵みです。

永遠の命、これこそ全ての人のために、特に高齢者にとって神の大きな福音ではないでしょうか。

教会案内図です



長崎を忘れないで

(大阪府下) 牧師水野健

オバマ米大統領が5月、被爆地・広島を訪問しました。「広島と長崎は『核戦争の夜明け』ではなく、私たちが道徳的に目覚めることの始まり」と演説し、核廃絶への決意を語りました。

核兵器を使った唯一の国の大統領が、七十一年過ぎてようやく広島を訪れたことは歴史的に喜ばしい意義あることです。聖書には「兄弟に恨まれていることを思い出したら、出て行って、まずあなたの兄弟と仲直りをしなさい」とあります。

学生時代に教会の交流行事で韓国を訪問した時、必ずしなければならなかったのは、日本側の代表が戦争を謝罪することでした。帰国してから聞かれた質問が心に残っています。戦後生まれた私たちがどうして謝罪しなければならないのですか

今回のオバマ大統領も戦後生まれです。戦争を体験していません。しかし、傷ついている人がいるなら、恨んでいる人がいるなら、その人のところに行つて仲直りをするところが聖書の勧めです。まず、行くところがあるように、広島に行つたことが重要なことでした。

そしてあるならば、長崎にも行くべきです。そして言うべきです。広島は核兵器が使われた最初であり、長崎は核兵器が使われた最後であること。



心の鍛錬も大切です

今回のリオオリンピックでは、日本選手が各種目に活躍し、話題になりました。口頃の鍛錬の成果です。

最近、健康の為、近くの健康推進センターや温水プールに通っている方が沢山います。身体を鍛錬しています。また、健康食品が宣伝され、愛用されている方も多いようです。

しかし、心の方はどうでしょうか。神の恵みによつて心を鍛えることも良いことと思います。食物によつてではなく、恵みによつて心を強めるのは、良いことです。「聖書

私達の心臓は体全体に血液を送り、全体の筋肉を動かします。身体の各部の筋肉を鍛えることは大切ですが、何よりも肝心なことは心臓が健康でなければなりません。同様のことが、心にも言えることでしょう。神のことはである聖書から、神が良いお方であり、恵みのお方であると教えられることで、私達の心は強められます。感謝や忍耐、親切、協力心、謙遜などを蓄えることができます。

何よりも大切なのは、心を健全に保つことであり、これを最優先にすべきでしょう。身体はやがて衰えるでしょうし、困難や試練の中を通されます。

しかし、神による心の鍛錬は、困難に打ち勝つ力となるのです。

聖書は「教える戒めと矯正の義の訓練のためには有益です」。

聖書



俳句

夕虹や就活の子を窓に呼ぶ

余命など誰にもありて秋の蝉

短歌

涙こぼす吾子の黒髪なでやれど人の気配にすことはなれる

就活の私の為に好物を絶ちしと

母は今頃話す

古都葉

今後のイベントを紹介します。

◎九月の特別イベント

十五日(木) 敬老の集い。食事会
十八日(日) 高齢者の祝福式

◎十月の特別イベント

二十三日(日) 午後一時より
バザー&カフェ

◎十一月二十六日(土) 教育文化会館

京都クリスマスフェスティバル
どなたでもお気軽にお出かけください。